

ロスジェネ世代のホームレス、シェルター利用過去最多

NPO 法人やまなしライフサポート理事長 中山八十司

2024年5月から10月の半年間に、職と住居を同時に失い、所持金を使い果たした23名のホームレスの方々が、私たちの無料緊急一時宿泊施設「ライフ荘」を利用しました。過去に例のない人数の多さと、平均年齢の低さに、わが国日本の隠された貧困の実態を見る思いがしました。

支援の内容は、18名の男性(平均年齢43.7歳)には寮のある会社への就労支援。31歳女性と、20代の若い夫婦には、生活保護申請に必要な書類の作成とアパート探しの支援をしてから、寝具、電気製品、家財道具を揃えて引っ越しまで。施設入所予定の52歳男性は6日間の支援の途中でライフ荘から無断で退去しました。彼には過去3回の就労支援歴がありました。

ライフ荘を利用する支援は、生活困窮者自立支援法に基づく一時生活支援事業として、2016年度から甲府市、笛吹市、山梨市、都留市、中央市(2022年度まで)の、自治体からの委託事業として実施されてきています。上記23名の利用者のうち20名は甲府市からの委託でした。ライフ荘を利用する一時生活支援事業はやまなしライフサポートの中心的な活動になっております。また、利用者のアフターケアとして訪問相談支援があります。

ライフ荘での滞在期間は2週間という制限がありますが、フル装備された静かなワンルームマンションで、衣食住に関する不安から解放されてゆっくりと休養することができます。この間に看護師による健康相談と就労相談員による就労支援があります。今回の23名は最短1泊、最長26泊、平均は11.4泊の利用でした。

看護師による血圧や血糖値、体温などのチェック、既往症

や体調不良に関する問診から重大な健康疾患が発見され、直ちに入院した方が2名いました。また、5名の方が双極性障害、発達障害、適応障害などの精神疾患の治療を受けつつ、気分の落ち込みや幻想、環境の変化に適應できない自身と戦いながら、悪条件の非正規派遣社員の生活を繰り返していることが判明しました。

就労支援の担当者はライフ荘利用者を訪問して、ライフサポートと提携している協力企業の雇用状況や仕事の内容を丁寧に説明します。当人の希望や職歴などを話し合い、スマホでの就職先との連絡が必要となるので、所持していない場合はスマホの貸し出しをします。当人の写真つき履歴書を用意し、効果的な書き方や面接試験のポイントを指導します。履歴書作成を指導しながら、1、2年あるいはそれ以下という短いスパンで転職を繰り返しながら、不安定な人生を強いられている派遣社員の悲惨な実態、また、児童養護施設の出身者は両親や家族との繋がりが無いために、就職やアパートを決める時の保証人確保という壁に苦しめる事実が判明しています。

派遣制度や自分の病気、生い立ちのために、繰り返し職場を変えざるを得ない状況の中で困窮と闘っている日本の若者たちは、日本社会の犠牲者だと言えるのではないかと。転職を繰り返しながら希望のない不安定な生活を強いられていた41歳の若者が京都アニメーション放火事件を起こしました。引きこもりで無職の家庭内暴力の42歳の若者は、実の父親によって殺されました。闇バイトに走る若者も後を絶ちません。日本の社会、貧困の現実是我々の日常生活と無関係ではないと思います。

2024年度前半の主な活動実績

2024年4月～2024年9月 人数は延べ数

食料配布、炊出し	1,350名(26回)	緊急一時宿泊(ライフ荘)	175泊(20名)
健康相談	1,329名(86回)	生活保護申請同行	5名(受給実績1名)
路上生活者面談	45名(44回)	就労相談	47名(就労実績9名)
生活保護・年金受給者面談	203名(113回)	見守りパトロール	50名(23回)

特集 炊出し再開後1年

2008年、アメリカ発の大不況が日本を襲い、山梨県でも多くの方が住まいや仕事を失いました。これらの困窮した人々を支援するために、一般市民や労働組合、キリスト教会関係者などが集い炊出しが始まりました。それ以来、毎週木曜日の炊出しが定例化し、実施回数は600回以上、利用者は延べ2万人を越える活動として定着しました。

しかし、2020年のコロナ感染症の影響により中止を余儀なくされました。その間、食事提供の代わりにお米や缶詰、レトルト食品等を配布する活動に切り替えて生活困窮者への支援を継続しました。

2023年のコロナ感染症の5類移行に伴い、同年7月より炊出しを再開しました。一方で食料配布のニーズも高かったことから、毎月第1木曜日は炊出し、それ以外の木曜日は食料配布という形態で継続することとしました。現在の1回あたりの利用者は、炊出しが30~40名、食料配布が60名程度となっています。



現在のメニューは利用者さんの要望の多いカレーライスと味噌汁です。

炊出しの役割

やまなしライフサポートが実施する炊出しは、食事の提供という側面だけでなく、以下のような様々な役割を持っています。

- ① 生活困窮者発見の場 … 来場される方は、知人に聞いたりインターネットを調べたりしたという方と、市役所や病院、地域包括支援センター、フードバンクなどの団体から紹介されたという方がおられます。様々な理由で生活に困難を抱えておられる方、中でも特に深刻な問題を抱えて悩んでおられる方の発見の場となっています。
- ② 居場所、安否確認の場 … 利用者アンケート調査によると、8割の方が一人住まいで、4割の方が困った時に頼れる人がいないと回答しています。そのような方々の交流の場となっているほか、常連の利用者が来場されない場合は自宅訪問して安否確認をしています。
- ③ 相談の場 … 食事会場の一角に健康相談コーナーと、仕事・生活相談コーナーを設けています。健康相談では、専任看護師が体温、血圧等や体調の確認を行い、必要に応じて病院受診に結びつけています。仕事・生活相談では、就労や生活の困りごとの相談に応じています。

健康相談(小林看護師)

食料配布の時は短時間に大勢来られるので一人ひとりとお話するのが難しいのですが、炊出し日はゆっくりお話を伺うことができます。体調を確認し血圧測定をして必要な方には受診を勧めたり、受診結果などその後の様子を確認しています。

80代のAさん(独居男性)について紹介します。毎回食料配布と炊出しを利用していますが、以前はお話したことがありませんでした。今春、自転車で食料配布に来て会場付近で転倒し、指先を受傷しました。すぐに病院に連れて行きましたが11針縫合の大けがでした。病院の待合室でいろいろな話をしてくれました。誰とも話さない日も多く夕食時涙が出ることで、今年1月から40分かけて自転車で通っていること、会場で待っている間に数人と話しをするようになり木曜日が楽しみになったこと…。その後きちんと通院し傷はきれいに治りました。

あなたのことを気にかけている存在として、利用者さんとゆるくつながれたらと思っています。

仕事、生活相談(鶴田相談員)

炊き出しは、みなさんが食事を楽しむ場でもあり、気軽に相談できる雰囲気大切にしています。相談内容は、「就職して再スタートを切りたいが、なかなかうまくいかない。」「離職したが、賃金の未払いがあり、何とか取り戻したい。」「履歴書の書き方がわからないので支援してほしい。」等々です。

仕事は、生活の糧を得るために重要であるだけでなく、その人の生きがいややりがい、自己有用感を持つためにも大切なことです。よってできる限りその人に寄り添った丁寧な相談、支援をしようと心がけています。実際に相談に来られた方のハローワークでの相談や職場見学に同行し、就労を達成し、いまでも働いている方もいらっしゃいます。一方で職場が合わずに早々に離職された方もいらっしゃいます。なかなか全てうまくいかないのが現実ですが、何よりその方の自分を変えたい、生活を向上させたいという強い気持ちが大切だと思っています。ライフサポートとしてその気持ちに応えられるように今後も初心を忘れずに支援し続けていきたいと思っています。

炊出し利用者の横顔

50代から70代の方が約9割を占めています。収入は年金と生活保護の方が多く、4分の3の方が月収10万円以下となっています。1日の食事回数が2回の方が半数近くを占め、4分の3の方が1日700円以下の食費で暮らしています。経済的に厳しい方が多く、炊出しが食生活の一部を支えているようです。

炊出しを支えるボランティアさん

炊き出しの調理は、毎回10名程度のボランティアさんに担っていただいています。炊出しスタート時からのベテランさんも、最近参加されるようになった新人さんも仲良く、和気あいあいと調理や配食に励んでおられます。

スタート時からの木村正子様

2008年12月30日、教会の駐車場にブルーシートを張り北風の吹く寒い夕方に、第1回目の炊出しはスタートしました。集まったボランティアは18名、食事に見えた方は13名。メニューは温かいものにしようかとカレーライス、みそ汁、野菜サラダ等でした。そして第2回目は年明け早々の1月3日。教会や一般市民の方々の協力は大きく多額の寄付をしてくださった方もいました。日増しに近隣の方々も食材を届けてくれるようになりました。ある時は大型車にお湯を一杯詰め込んで足湯サービスをしてくださった施設の方も。なんとも心温まる光景でした。

以来ボランティアの輪も広がり、学生さん、地域のみなさん、修道院のシスター、外国籍の方々など多くの方が奉仕してくださっています。

この頃は利用者のみなさんともすっかり顔なじみになり、お互いに笑顔で話し合いながら元気を分かち合っています。この食事会の方が共に心地よい居場所となり、お互いを大切にし合える場になれますようにと願っています。

新人ボランティアの佐々木成子様、綾子様姉妹

昨年10月から調理ボランティアとして参加しています。プロテスタント信者だった時に甲府カトリック教会の芹沢神父に出会い、炊出しの事を聞いたので参加するようになりました。

これまで地域のイベント等のボランティアをしたことがありましたが、食べることに事欠く苦しい立場の人々が山梨にいることに驚き、炊出しボランティアは全く違う活動だと感じています。

調理は自宅でもしていますが、ここでは50人分を大きな鍋で一度に作るの自宅とは違う達成感があり、先輩ボランティアさんからいろいろなお話しが聞けて料理の勉強にもなっています。皆でわいわい言いながら作る雰囲気も好きです。

現在は遠方に引っ越してしまいましたが、片道90分かけて頑張っています。



食材のご寄付で支えていただいた方

炊出しの食材は多くの善意の方の寄付に支えられています。農家から、お米、野菜、卵、味噌などや、一般の方からも米や調味料などをいただいています。

山梨市・匿名様(80代男性)

- ・ご寄付内容: 里芋 15kg他
- ・ひとこと: 以前は桃の生産農家でしたが、75歳になったのを機に生業としての農業からの卒業を決意し、収入を目的とせず生産物を食べて頂くための“農”野菜作りを始めました。

以前から東南アジアの貧しい人々への支援活動をしてきたこともあり、今度は育てた野菜を身近な困窮者へ差し上げたいと思い、山梨市社会福祉協議会に相談したところ、やまなしライフサポートを紹介されました。人助けの寄付というよりも「お布施の心」で自分の育てたものを食べて頂くことが喜びであり私の方が感謝しています。



甲斐市・匿名様

- ・ご寄付内容: モミ米 270kg
- ・ひとこと: 甲斐市で農家をしています。これまでは残ったお米は地元の福祉団体に寄付していました。今年8月2日の山日新聞記事で、やまなしライフサポートが配布しているお米が足りないということを知り、寄付を申し込みました。現在のこの日本でお米を食べられない人がいるということは農家の私たちにとっては衝撃でした。提供したお米で多くの人々のお腹を満たすことができたら幸いです。



炊き出し利用者の声

Mさん(60代、男性)

炊き出しは10年以上利用しています。現在の月収は障害者年金が約7万円、作業所での報酬が約1万の計8万円なので生活は楽ではありません。

食事は1日2食で、ご飯は2日分まとめて炊き、おかずは焼き魚、納豆、豆腐などで健康に注意するようにしています。

現在、炊出しが月1回になって寂しいですが、おいしいカレーを食べるために自転車で30分以上かけて通っています。

Bさん(80代、男性)

廃品回収をしていたころ、仲間から炊出しの事を聞いて参加したのが始まりです。それ以来毎回利用しています。

高齢で火災が心配だし、片付けが大変なので、自宅でガスコンロを使うのはやめています。

毎日の食事は、昼はコンビニのおにぎり2個、夜は近所の弟の家で食べています。炊出しのカレーがおいしいし、知り合いにも会えるので毎回楽しみにしています。

食料配布

毎月第1木曜日以外の木曜日は食料配布を行っています。内容は、毎回提供の精米3合を基本に、フードバンク山梨様や社会福祉協議会様からご寄付のレトルトカレー、アルファ米、カップ麺、飲み物等に加え、農家からいただいた季節の野菜、果物など5品程度となっています。毎回60名程度の利用があります。



ボランティアさん募集

炊出しのボランティアを募集しています。調理、配食、片付けをお願いしています。毎月第1木曜日、14時から17時。ご都合の良い一部時間帯でも結構です。

マスク、三角巾、エプロンをご用意いただき、13時50分にご集合をお願いします。

場所: 甲府市中央2丁目7-10 カトリック甲府教会(駐車場あり)

物品のご寄付を募っています

家を失った方が新たにアパートでの生活を始めるにあたり、様々な生活用品が必要になります。多くのご寄付をいただいておりますが、現在右記の物品が特に必要です。ご連絡いただきましたら甲府市周辺であれば当方より受け取りに伺いますのでよろしくお願いします。

(家電製品は製造後10年以内の物をお願いします)

小型冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、
小型テレビ、電気炊飯器、コタツ、
電気ポット、自転車、カーテン、布団

寄付金も募っています

貴い寄付金が食料や衣類となって困窮されている人を支えます。

お振込みの前に、電話かメールでその旨お伝えいただけると幸いです。

振込先

山梨中央銀行 南支店 普通預金 865629

名義人 特定非営利活動法人やまなしライフサポート 理事 中山八十司

(トクヒ.ヤマナシライフサポート)

会員募集中です

やまなしライフサポートの活動を資金面で支えてくださる方を募集しています。

正会員(当団体を支援し活動に参加して下さる方。総会での議決権あり)	年会費 個人 5,000 円 団体 10,000 円
賛助会員(当団体の活動を応援して下さる方)	年会費 個人 3,000 円 団体 5,000 円

入会申込書は、やまなしライフサポートのホームページ(<http://yls.or.jp/>)からダウンロードすることができます。